

位相空間論第二（講義）(MTH.B202)

整列定理

山田光太郎

`kotaro@math.titech.ac.jp`

<http://www.official.kotaroy.com/class/2024/top-2>

東京工業大学理学院数学系

2024/07/02

命題 (命題 11.16)

X : 集合 ; $\{S(\lambda)\}_{\lambda \in \Lambda}$: X の部分集合の族.

- ▶ $S(\lambda)$ には整列順序 \leq_λ が存在する.
- ▶ $\lambda, \mu \in \Lambda$ に対して $(S(\lambda), \leq_\lambda)$, $(S(\mu), \leq_\mu)$ は一方が他方の切片に順序集合として一致する.
- ▶ $S := \bigcup_{\lambda \in \Lambda} S(\lambda)$

\Rightarrow

S の整列順序 \preceq で次を満たすものが唯一つ存在する :

- ▶ $S(\lambda) \neq S \Rightarrow S(\lambda)$ は S の切片.

ツォルンの補題の言い換え

定理 (ツォルンの補題；定理 11.1)

X : 帰納的順序集合 ; $x_0 \in X$

$\Rightarrow X$ の極大元 m で $x_0 \leq m$ となるものが存在する

定理 (定理 12.2)

次の 2 つはそれぞれツォルンの補題と同値である :

(a). $\mathcal{P} \subset 2^X$ が有限的な性質, かつ $\mathcal{P} \neq \emptyset$

\Rightarrow 包含関係について極大な $M \in \mathcal{P}$ が存在

(b). (X, \leq) : 順序集合

\Rightarrow 包含関係に関する X の極大な全順序部分集合 M が存在

整列定理

定理 (定理 12.6)

任意の集合 X 上に整列順序が存在する.

- ▶ $\mathcal{W} = \{(S, \leq); S \subset X, \leq \text{ は } S \text{ の整列順序}\}$
- ▶ $(S_1, \leq_1) \preceq (S_2, \leq_2) \Leftrightarrow S_1 = S_2 \text{ または } S_1 = (S_2)_\alpha$
- ▶ $\mathcal{V} : \mathcal{W}$ の包含関係に関する極大全部分集合.

$$V := \bigcup_{S \in \mathcal{V}} S$$

整列定理と選択公理

系 (系 12.7)

選択公理, ツォルンの補題, 整列定理は同値.

_____時_____分に再開します.